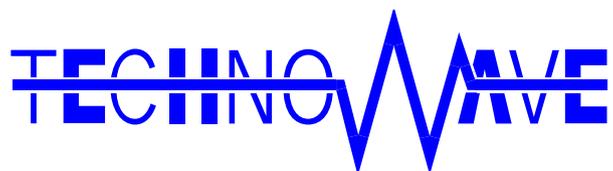


USBM3069F ユーザーズマニュアル



テクノウェーブ株式会社

目次

1. はじめに	4
□ 安全にご使用いただくために.....	4
□ その他の注意事項.....	4
□ マニュアル内の表記について.....	5
□ 関連マニュアル	5
2. 製品概要	6
□ 特徴.....	6
□ 『USBM3069F』 の主な I/O 機能.....	6
□ 製品の用法について	7
ホストパソコンから制御する	7
機能を追加する／単体で動作させる	8
ハードウェアのみ利用する.....	8
3. 製品仕様	9
□ 仕様概略	9
□ 端子説明	12
□ ジャンパースイッチ	15
モード設定	15
□ 電源の設定.....	16
バスパワーで使用する	16
セルフパワーで使用する	16
2 ウェイ電源（バスパワー／セルフパワー兼用）で使用する	16
□ メモリマップ	18
□ フラッシュメモリ	19
4. 使用準備	20
□ ドライバのインストール.....	20
Windows 7 のインストール例	20
Windows XP のインストール例	22
古いドライバからの更新方法	24
□ VI ライブラリのインストール	25
□ 設定ツール.....	25
設定ツールのインストール.....	25
設定ツールについて.....	25
コンフィギュレーション情報の変更	26
製品情報の設定.....	27

端子初期状態の設定.....	28
ファームウェアの更新.....	29
5. トラブルシューティング.....	30
□ 製品と通信ができない場合.....	30
APPENDIX.....	30
□ 製品の応答時間.....	30
保証期間.....	31
サポート情報.....	31

1. はじめに

このたびはマイコンボード『USBM3069F』をご購入頂き、まことにありがとうございます。以下をよくお読みになり、安全にご使用いただけますようお願い申し上げます。

□ 安全にご使用いただくために

製品を安全にご利用いただくために、以下の事項をお守りください。

	危険	これらの注意事項を無視して誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じる可能性があります。
<ul style="list-style-type: none">引火性のガスがある場所では使用しないでください。爆発、火災、故障の原因となります。		

	警告	これらの注意事項を無視して誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性があります。
<ul style="list-style-type: none">水や薬品のかかる可能性がある場所では使用しないでください。火災、感電の原因となります。結露の発生する環境では使用しないでください。火災、感電の原因となります。定格の範囲内でご使用ください。火災の原因となります。		

	注意	これらの注意事項を無視して誤った取り扱いをすると人が傷害を負う可能性があります。また物的損害の発生が想定されます。
<ul style="list-style-type: none">製品のコネクタには尖った部分がありますので、取り扱いの際には十分ご注意ください。本製品は製品の性質上、電源も含めて信号線が露出している部分があります。信号線同士がショートしないように注意してください。製品、接続したパソコンやその他の機器などが故障する恐れがあります。濡れた手で製品を扱わないでください。故障の原因となります。異臭、過熱、発煙に気がついた場合は、ただちに電源を切断し USB ケーブルを抜いてください。製品を改造しないでください。		

□ その他の注意事項

<ul style="list-style-type: none">本製品は一般民製品です。特別に高い品質・信頼性が要求され、その故障や誤動作が直接人命を脅かしたり、人体に危害を及ぼす恐れのある機器に使用することを前提としていません。本製品をこれらの用途に使用される場合は、お客様の責任においてなされることとなります。お客様の不注意、誤操作により発生した製品、パソコン、その他の故障、及び事故につきましては弊社は一切の責任を負いませんのでご了承ください。本製品または、付属のソフトウェアの使用による要因で生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負えませんのでご了承ください。		
--	--	--

□ マニュアル内の表記について

本マニュアル内では対応製品『USBM3069F』を、単に「製品」または「デバイス」と表記する場合があります。また、『USBM3069F』は、ほとんどの機能において、前バージョン『USBM3069』の上位互換となっています。接続、プログラミング方法などのほとんどは同様となっていますので、製品名を表記する場合、特別区別する必要が無い限り『USBM3069』と表記しています。

本マニュアル内でハードウェアの電氣的状態について記述する必要がある場合には、下記のように表記します。

表 1 電氣的状態の表記方法

表記	状態
"ON"	電流が流れている状態、スイッチが閉じている状態、オープンコレクタ(オープンドレイン)出力がシンク出力している状態。
"OFF"	電流が流れていない状態、スイッチが開いている状態、オープンコレクタ(オープンドレイン)出力がハイインピーダンスの状態。
"Hi"	電圧がロジックレベルのハイレベルに相当する状態。
"Lo"	電圧がロジックレベルのローレベルに相当する状態。
"Z"	端子がハイインピーダンスの状態。

数値について「0x」、「&H」、「H」はいずれもそれに続く数値が 16 進数であることを表します。「0x10」、「&H1F」、「H' 20」などはいずれも 16 進数です。同様に「B」に続く数値は 2 進数であることを表します。例えば「B'0100001」のように表記されます。数値の最初に特別な表記が無い場合は 10 進数です。

□ 関連マニュアル

製品の使用方法に関して、以下のドキュメントを用意しております。合わせてご参照ください。

表 2 製品関連マニュアル

ドキュメント名	内容
USBM3069F ユーザーズマニュアル (本マニュアル)	基本事項、ハードウェア、設定など
M3069 マイコンボード プログラミング・リファレンス	パソコンのアプリケーションプログラムから製品を制御する方法、TWB ライブラリの各関数の説明
M3069 マイコンボード ユーザーファーム開発マニュアル	ユーザーファーム(マイコン用プログラム)の開発方法
VI ライブラリヘルプファイル	LabVIEW 用ライブラリの使用方法

2. 製品概要

□ 特徴

- 『USBM3069F』はマイコンチップ「H8/3069RF」(ルネサス エレクトロニクス社)と USB インタフェース IC「FT245RL」(FTDI¹社)を搭載したマイコンボードです。
- 「FT245RL」の機能により、マイコン用のファームウェア、パソコン用のドライバソフトなどを開発すること無く、USB インタフェースを持ったパソコン用周辺機器を簡単に作製することができます。
- 搭載されたマイコンには、あらかじめ内蔵の周辺機能を簡単に利用するためのファームウェアが書き込まれ、すぐに USB-I/O ボードとして使用できます。そのため高価なエミュレータや開発環境、マイコンの知識などは必ずしも必要ではありません。
- USB-I/O ボードとして利用するための専用ライブラリが付属します。パソコン上のアプリケーションソフトからライブラリ関数を呼び出すことで、簡単に製品の I/O 機能を利用できます。専用 API は DLL モジュールで提供され、Visual C++[®] や Visual Basic[®]、Visual C#[®] で作成したプログラムから呼び出すことができます。
- デフォルトのファームウェアに追加するかたちで、ユーザー独自のマイコンプログラムを作成し、ボード上のマイコンにダウンロードすることができます。I/O 機能はそのまま利用できますので、タイムクリティカルな処理や、オリジナルの機能だけをプログラミングして追加することができます。
- 『USBM3069F』ボードの物理的なレイアウトや I/O 機能のほとんどは、弊社製品『LANM3069』と互換性を持っています。専用ライブラリも共通となっていますので、多くのアプリケーションプログラムは変更なく USB インタフェースにもネットワークインタフェースにも対応することができます。
- 電源供給方式として、バスパワー、セルフパワー、2 ウェイ(バスパワー／セルフパワー兼用)が選択可能ですので、周辺回路に応じて自由に電源を選択できます。
- GUI で操作できる各種設定ツールが付属しています。
- ボードには正式な VID、PID が付与されていますので、別途取得する必要がありません。
- Visual Basic for Applications に対応しています。
- LabVIEWTM に対応しています。

□ 『USBM3069F』の主な I/O 機能

- ・ デジタル I/O
- ・ 8 ビットバス(1M バイト×4 のアドレス空間)
- ・ AD コンバータ(10 ビット)
- ・ DA コンバータ(8 ビット)
- ・ PWM 出力
- ・ 16 ビットハードウェアカウンタ
- ・ 32 ビットソフトウェアカウンタ
- ・ シリアル通信(RS-232C 信号レベル、調歩同期、300~38400bps)

¹ Future Technology Devices International Limited

Visual C++、Visual Basic、Visual C# は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
LabVIEW は、National Instruments Corporation の商標です。

□ 製品の用法について

ホストパソコンから制御する

製品には、あらかじめ専用のマイコンプログラムが書き込まれています。このプログラムのことを**システムファーム**と呼びます(パソコン上で動作するプログラムやソフトウェアと区別するために、マイコン用のプログラムのことをファームウェア、または単にファームと呼びます)。

システムファームの役割は、USB インタフェースを通じてホストパソコンから送られてくる命令(制御コマンド)を解釈し、I/O やタイマなどのマイコン機能を制御することです。

製品の最も基本的な使用法は、このシステムファームを利用してハードウェアを制御することです。下の図はこの場合の階層図を示しています。システムファームに命令を送るには、ホストパソコン上で動作するアプリケーションプログラムを作成し、用意された専用ライブラリの API 関数を呼び出します。この専用ライブラリのことを **TWB ライブラリ** と呼びます。

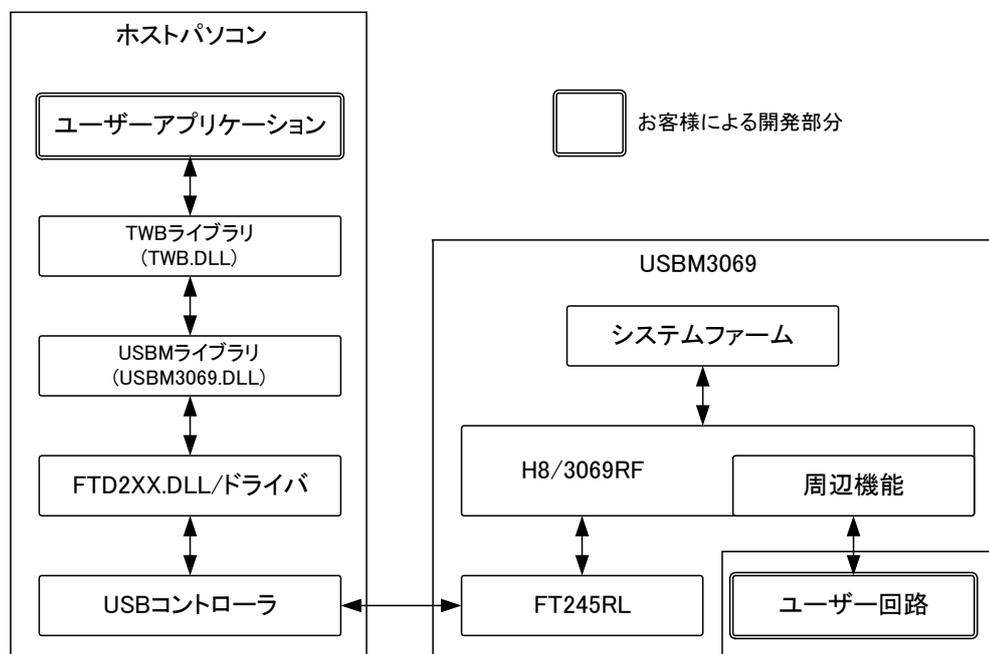


図 1 システムファームと TWB ライブラリによる制御

機能を追加する／単体で動作させる

ホストパソコンから制御する方法の他に、ボード上のマイコン用プログラムを効率よく開発できる仕組みも用意されています。そのため、マイコン上のプログラムでなければ実現が困難な複雑な制御や、リアルタイム性が要求される処理にも対応可能です。この、マイコン上で動作する追加プログラムのことを**ユーザーファーム**と呼びます。

ユーザーファームを利用することで、システムファームではサポートされない新しいコマンドを追加したり(図 2)、ホストパソコンと無関係に自律的に動作²させたりが可能になります。

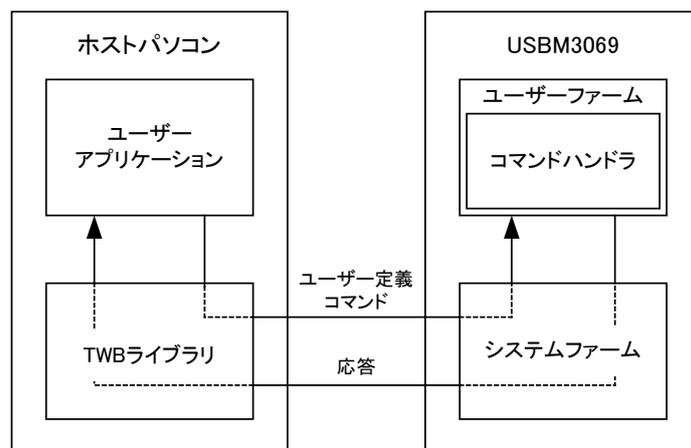


図 2 新しいコマンドの追加

ユーザーファームの開発言語は C 言語、開発環境は『YellowIDE(YCH8)』、『イエロースコープ(YSH8)』³をサポートしています。

ハードウェアのみ利用する

一般のマイコンボードと同様に市販の開発ツールを利用して、マイコンのプログラムを開発し、内蔵フラッシュを書き換えて使用することも可能です。この方法では、マイコンの内蔵機能⁴や、割り込みなどを自由に利用できます。しかし、TWB ライブラリによる制御はできなくなります。

内蔵フラッシュメモリにプログラムをダウンロードするには、専用のフラッシュライティングツールを使用します。ツールの詳細は 25 ページを参照してください。

- 製品では H8/3069RF をモード 5 で利用しています。その他のモードには設定できません。
- 市販のフラッシュライティングツールを使用し、SCI(シリアルポート)経由でフラッシュメモリを書き換えると、USB 経由でのプログラムのダウンロード及びファームウェアの更新ができなくなります。必ず付属ツールを使用するようにしてください。

² セルフパワーでの動作が必要です。

³ 『YellowIDE(YCH8)』及び『イエロースコープ(YSH8)』は株式会社エル・アンド・エフの製品です。

⁴ ボードの仕様上、外部に接続されない信号がありますので利用できない機能があります。回路図で確認してください。

3. 製品仕様

□ 仕様概略

表 3 仕様概略

項目	仕様	備考	
基板寸法	95 × 72 [mm]	コネクタなどの突起部含まず	
電源電圧	4.5~5.25[V]		
消費電流(ボード単体、無負荷時)	70 [mA]		
動作温度範囲	0~70[°C]		
フラッシュメモリのプログラム保持年数	10 年		
インタフェース	USB	フルスピード(12Mbps)	
I/O ポート数	入力専用ポート	最大 20 ピン	
	出力専用ポート	8 ピン	
	入出力兼用ポート	最大 16 ピン	
AD コンバータチャンネル数	4	入力範囲 0V~5V	
DA コンバータチャンネル数	2	出力範囲 0V~5V	
ハードウェアカウンタ入力数	最大 2		
ソフトウェアカウンタ入力数	4	立下りのみカウント可能	
シリアルチャンネル数	2	RS-232C 準拠の信号レベル	
PWM 出力数	最大 3	16 ビットタイマ機能を利用	
通信速度	ライト(PC→ボード)	900 [KBytes/sec] ⁵	DMA 使用時の代表値
	リード(PC←ボード)	550 [KBytes/sec] ⁵	DMA 使用時の代表値
付属ライブラリ対応 OS	Windows XP, Vista, 7, 8, 8.1, 10		

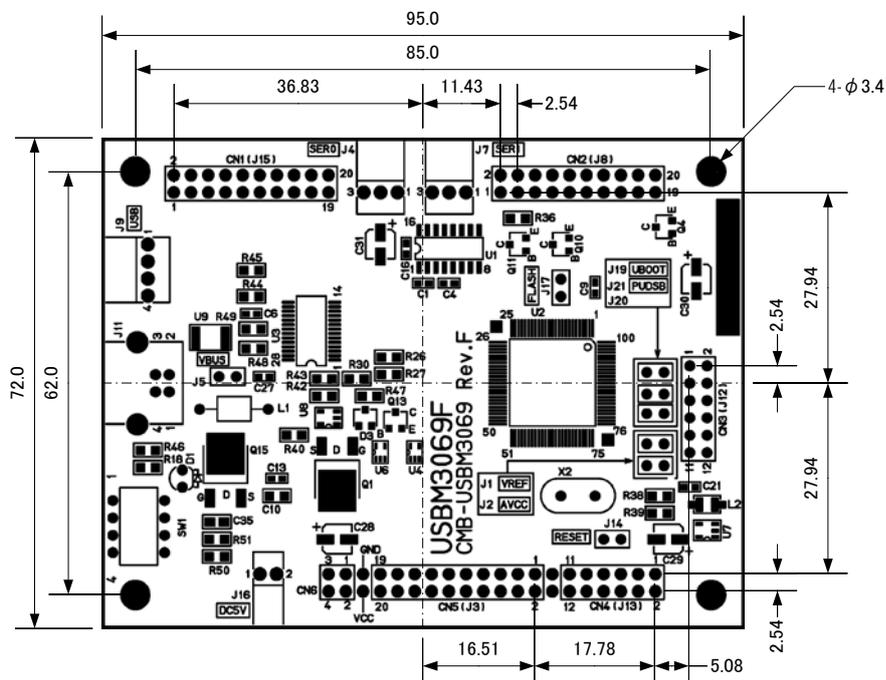


図 3 基板図

⁵ 16K バイトのデータを内蔵ファームの DMA 転送機能を使用して入出力することで測定した結果です。マイコンや USB の使用状況により変化します。また、USB の性質上、小さなデータを入出力する場合は見かけのスループットが極端に悪くなる場合があります(31 ページ参照)。

表 4 定格

項目		記号	Min	Max	単位	測定条件
電源電圧		VCC	-0.3	5.25	V	
アナログ電源電圧		AVCC	-0.3	5.25	V	
入力電圧	AD0~AD3, RSV0,PUENB,VREF	V _{in}	-0.3	AVCC+0.3	V	
	USB_RES#,SP/BP#	V _{in}	-0.5	15	V	25°C
	上記以外	V _{in}	-0.3	VCC+0.3	V	
出力電圧	POUT#	V _{out}	0	50	V	DC 出力時,25°C
出力 Lo レベル 許容電流	P1,P2,P5, PA0,PA1	I _{OL}		10	mA	DC 出力時,25°C
	POUT#			0.2		
	上記以外			30		
				2		
出力 Hi レベル 許容電流	POUT#以外	I _{OH}		2	mA	
総和出力 Lo レベル 許容電流	P1,P2,P5 の総和	Σ I _{OL}		80	mA	
	POUT#以外でP1,P2,P5を 含む総和			120		
総和出力 Hi レベル 電流	POUT#以外の総和	Σ I _{OH}		40	mA	
電源コネクタ(J16)許容電流		I _{vcc}		3	A	25°C
動作温度		T _{opr}	0	70	°C	

USB 端子、シリアル入出力端子は含まれません。

測定条件、本書に記載されない特性については「H8/3069R F-ZTAT™ ハードウェアマニュアル」をご参照ください。

表 5 DC 特性

項目		記号	Min	Max	単位	測定条件
シュミットトリガ 入力電圧	PA0~PA7 PC2#,PC3#	V _t ⁻	1.0		V	
		V _t ⁺		VCC × 0.7		
		V _t ⁺ - V _t ⁻	0.4			
入力 Hi レベル電圧	RES#,PA0~PA7, PC2#,PC3#以外	V _{IH}	2.0		V	
	RES#		VCC-0.7			
入力 Lo レベル電圧	RES#,PA0~PA7, PC2#,PC3#以外	V _{IL}		0.8	V	
	RES#			0.5		
出力 Hi レベル電圧	PA0,PA1,POUT#以外	V _{OH}	3.5		V	I _{OH} = -1mA
	PA0,PA1		3.5			I _{OH} = -200 μA
出力 Lo レベル電圧	PA0,PA1,POUT#以外	V _{OL}		0.4	V	I _{OL} = 1.6mA
	PA0,PA1			1.0		I _{OL} = -200 μA
	POUT#			1.0		I _{OL} = 30mA

USB 端子、シリアル入出力端子は含まれません。

測定条件、本書に記載されない特性については「H8/3069R F-ZTAT™ ハードウェアマニュアル」をご参照ください。

表 6 内蔵アナログリファレンス特性

項目	Min.	Max.	単位	条件
電圧	4.985	5.015	V	全温度範囲
温度偏差	-	25	ppm/°C	

表 7 AD 変換特性⁶

項目	Min.	Typ.	Max.	単位
アナログ入力範囲	0	-	VREF	V
分解能	10	10	10	bit
アナログ入力容量		-	20	pF
許容信号源 インピーダンス		-	5	kΩ
非直線性誤差		-	±3.5	LSB
オフセット誤差		-	±3.5	LSB
フルスケール誤差		-	±3.5	LSB
量子化誤差		-	±0.5	LSB
絶対精度		-	±4.0	LSB

表 8 DA 変換特性⁶

項目	Min.	Typ.	Max.	単位	測定条件
アナログ出力範囲	0	-	VREF	V	
分解能	8	8	8	bit	
絶対精度	-	±1.5	±2.0	LSB	負荷抵抗 2MΩ
	-	-	±1.5		負荷抵抗 4MΩ

表 9 PWM 出力特性

項目	仕様
周波数	最大 12.5 [MHz]
デューティ分解能	出力周波数に依存

表 10 ハードウェアカウンタ特性

項目	仕様
周波数	最大 2.5 [MHz]
カウンタビット数	16 [bit]

表 11 ソフトウェアカウンタ(パルスカウンタ)特性

項目	仕様	備考	
周波数	チャンネル 0	33.3 [KHz]	1チャンネルのみ使用時の最大値。複数使用、他機能と同時使用で低下。
	チャンネル 1~3	40 [KHz]	
カウンタビット数		32 [bit]	

表 12 シリアルポートの仕様

項目	仕様
方式	調歩同期式(フロー制御なし)
ビットレート	300~38400 [bps]
信号レベル	RS-232C 準拠

表 13 USB ID

項目	値	
ベンダーID	H'1237	
プロダクトID	バスパワー用	H'F001
	セルフパワー用	H'F002

⁶ 搭載マイコンの仕様に準じます。詳細は「H8/3069R F-ZTAT™ ハードウェアマニュアル」を参照してください。

□ 端子説明

以下は『USBM3069F』のピン説明です。右の列には参考として H8/3069RF の対応するピン番号と信号名を示します。POUT0#~POUT7#についてはトランジスタを介してオープンコレクタ出力となっていますので、H8/3069RF の端子とは直結されていません。詳しくは回路図をご参照ください。

表中の OC はオープンコレクタ、#は負論理の信号、SH は入力ピンとして機能するときにシュミットトリガ入力となることを示します。

表 14 CN1(J15) 7端子

USBM3069 での番号/名称/機能/方向				H8/3069RF の番号/名称	
コネクタ-ピン番	信号名	説明	方向	番号	信号名
CN1-1	D15	データバス	I/O	34	D15/P37
CN1-2	D14	データバス	I/O	33	D14/P36
CN1-3	D13	データバス	I/O	32	D13/P35
CN1-4	D12	データバス	I/O	31	D12/P34
CN1-5	D11	データバス	I/O	30	D11/P33
CN1-6	D10	データバス	I/O	29	D10/P32
CN1-7	D9	データバス	I/O	28	D9/P31
CN1-8	D8	データバス	I/O	27	D8/P30
CN1-9	D7/P47	データバス/デジタル入出力	I/O	26	D7/P47
CN1-10	D6/P46	データバス/デジタル入出力	I/O	25	D6/P46
CN1-11	D5/P45	データバス/デジタル入出力	I/O	24	D5/P45
CN1-12	D4/P44	データバス/デジタル入出力	I/O	23	D4/P44
CN1-13	D3/P43	データバス/デジタル入出力	I/O	21	D3/P43
CN1-14	D2/P42	データバス/デジタル入出力	I/O	20	D2/P42
CN1-15	D1/P41	データバス/デジタル入出力	I/O	19	D1/P41
CN1-16	D0/P40	データバス/デジタル入出力	I/O	18	D0/P40
CN1-17	PC1#	パルスカウンタ入力	I	17	IRQ5#/P95/SCK1
CN1-18	PC0#	パルスカウンタ入力	I	16	IRQ4#/P94/SCK0
CN1-19	GND	電源			
CN1-20	VCC	電源			

表 15 CN2(J8)端子

USBM3069 での番号/名称/機能/方向				H8/3069RF の番号/名称	
コネクタ-ピン番	信号名	説明	方向	番号	信号名
CN2-1	POUT4#	デジタル出力 (OC、LED 駆動可)	0	9	RxD2/PB7/TP15
CN2-2	POUT3#	デジタル出力 (OC、LED 駆動可)	0	8	TxD2/PB6/TP14
CN2-3	POUT2#	デジタル出力 (OC、LED 駆動可)	0	7	LCAS#/PB5/TP13/SCK2
CN2-4	POUT1#	デジタル出力 (OC、LED 駆動可)	0	6	UCAS#/PB4/TP12
CN2-5	CS5#	CS5#出力	0	4	CS5#PB2/TM02/TP10
CN2-6	PA7/TIOCB2	デジタル入出力 (SH)	I/O	100	PA7/A20/TP7/TIOCB2
CN2-7	PA6/TIOCA2	デジタル入出力 (SH)/PWM 出力	I/O	99	PA6/A21/TP6/TIOCA2
CN2-8	PA5/TIOCB1	デジタル入出力 (SH)	I/O	98	PA5/A22/TP5/TIOCB1
CN2-9	PA4/TIOCA1	デジタル入出力 (SH)/PWM 出力	I/O	97	PA4/A23/TP4/TIOCA1
CN2-10	PA3/TIOCBO	デジタル入出力 (SH)	I/O	96	PA3/TCLKD/TIOCBO/TP3
CN2-11	PA2/TIOCA0	デジタル入出力 (SH)/PWM 出力	I/O	95	PA2/TCLKC/TIOCA0/TP2
CN2-12	PA1/TCLKB	デジタル入出力 (SH)/ハードウェアカウンタ入力	I/O	94	PA1/TP1/TCLKB/TEND1#
CN2-13	PA0/TCLKA	デジタル入出力 (SH)/ハードウェアカウンタ入力	I/O	93	PA0/TP0/TCLKA/TEND0#
CN2-14	CS0#	CS0#出力	0	91	P84/CS0#
CN2-15	ADTRG#	AD トリガ入力	I	90	P83/CS1#/IRQ3#/ADTRG#
CN2-16	PC3#/CS2#	パルスカウンタ入力 (SH)/CS2#出力	I/O	89	P82/CS2#/IRQ2#
CN2-17	PC2#/CS3#	パルスカウンタ入力 (SH)/CS3#出力	I/O	88	P81/CS3#/IRQ1#
CN2-18	POUT0#	デジタル出力 (OC、LED 駆動可)	0	87	P80
CN2-19	GND	電源			
CN2-20	VCC	電源			

7) 内は旧バージョンの『USBM3069』のコネクタ番号です。

表 16 CN3(J12)端子

USBM3069 での番号/名称/機能/方向				H8/3069RF の番号/名称	
コネクタ-ピン番	信号名	説明	方向	番号	信号名
CN3-1	GND	電源			
CN3-2	DA1	アナログ出力	0	85	P77/AN7/DA1
CN3-3	DA0	アナログ出力	0	84	P76/AN6/DA0
CN3-4	PUENB	P4 のプルアップをコントロール	1	83	P75/AN5
CN3-5	UFIRM#	J20 と同機能。“Lo”でユーザーファーム起動	1	82	P74/AN4
CN3-6	AD3	アナログ入力	1	81	P73/AN3
CN3-7	AD2	アナログ入力	1	80	P72/AN2
CN3-8	AD1	アナログ入力	1	79	P71/AN1
CN3-9	AD0	アナログ入力	1	78	P70/AN0
CN3-10	VREF	アナログリファレンス		77	VREF
CN3-11	AVCC	アナログ電源		76	AVCC
CN3-12	VCC	電源			

表 17 CN4(J13)端子

USBM3069 での番号/名称/機能/方向				H8/3069RF の番号/名称	
コネクタ-ピン番	信号名	説明	方向	番号	信号名
CN4-1	GND	電源			
CN4-2	LWR#	下位バイトライトストロープ	0	72	P66/LWR#
CN4-3	WR#	上位バイトライトストロープ	0	71	P65/HWR#
CN4-4	RD#	リードストロープ	0	70	P64/RD#
CN4-5	AS#	アドレスストロープ	0	69	P63/AS#
CN4-6		未使用	1	64	NMI#
CN4-7	RES#	リセット	1	63	RES#
CN4-8		未使用	1	62	STBY#
CN4-9	CLK	25MHz クロック出力	0	61	CLK
CN4-10	POUT7#	デジタル出力 (OC, LED 駆動可)	0	60	P62#
CN4-11	POUT6#	デジタル出力 (OC, LED 駆動可)	0	59	P61#
CN4-12	POUT5#	デジタル出力 (OC, LED 駆動可)	0	58	P60#

表 18 CN5(J3)端子

USBM3069 での番号/名称/機能/方向				H8/3069RF の番号/名称	
コネクタ-ピン番	信号名	説明	方向	番号	信号名
CN5-1	P53/A19	デジタル入力/アドレスバス	I/O	56	A19/P53
CN5-2	P52/A18	デジタル入力/アドレスバス	I/O	55	A18/P52
CN5-3	P51/A17	デジタル入力/アドレスバス	I/O	54	A17/P51
CN5-4	P50/A16	デジタル入力/アドレスバス	I/O	53	A16/P50
CN5-5	P27/A15	デジタル入力/アドレスバス	I/O	52	A15/P27
CN5-6	P26/A14	デジタル入力/アドレスバス	I/O	51	A14/P26
CN5-7	P25/A13	デジタル入力/アドレスバス	I/O	50	A13/P25
CN5-8	P24/A12	デジタル入力/アドレスバス	I/O	49	A12/P24
CN5-9	P23/A11	デジタル入力/アドレスバス	I/O	48	A11/P23
CN5-10	P22/A10	デジタル入力/アドレスバス	I/O	47	A10/P22
CN5-11	P21/A9	デジタル入力/アドレスバス	I/O	46	A9/P21
CN5-12	P20/A8	デジタル入力/アドレスバス	I/O	45	A8/P20
CN5-13	P17/A7	デジタル入力/アドレスバス	I/O	43	A7/P17
CN5-14	P16/A6	デジタル入力/アドレスバス	I/O	42	A6/P16
CN5-15	P15/A5	デジタル入力/アドレスバス	I/O	41	A5/P15
CN5-16	P14/A4	デジタル入力/アドレスバス	I/O	40	A4/P14
CN5-17	P13/A3	デジタル入力/アドレスバス	I/O	39	A3/P13
CN5-18	P12/A2	デジタル入力/アドレスバス	I/O	38	A2/P12
CN5-19	P11/A1	デジタル入力/アドレスバス	I/O	37	A1/P11
CN5-20	P10/A0	デジタル入力/アドレスバス	I/O	36	A0/P10

表 19 CN6 端子

USBM3069F での番号/名称/機能/方向				H8/3069RF の番号/名称	
コネクタ-ピン番	信号名	説明	方向	番号	信号名
CN6-1	FLASH	J17 と同機能。“Hi”でフラッシュ書換え	I		
CN6-2	USB_RES#	FT245RL のリセット入力	I		
CN6-3	SP/BP#	セルフパワー/バスパワーの切替え	I		
CN6-4	GND	電源			

以下はシリアル通信(調歩同期)のための端子です。ユーザーファームのデバッグを行う場合、シリアル 1 をデバッグで使用します。信号レベルは RS-232C 準拠となっています。

表 20 シリアル通信用端子

コネクタ-ピン番	信号名	説明
J4-1	TxD0	シリアル 0 出力
J4-2	RxD0	シリアル 0 入力
J4-3	GND	
J7-1	TxD1	シリアル 1 出力
J7-2	RxD1	シリアル 1 入力
J7-3	GND	

適合コネクタ：5051-03、51191-0300(日本モレックス株式会社)

表 21 電源端子

コネクタ-ピン番	信号名	説明
J16-1	VCC	セルフパワー時は電源入力端子、
J16-2	GND	バスパワー時は+5V を取り出せます

適合コネクタ：5051-02、51191-0200(日本モレックス株式会社)

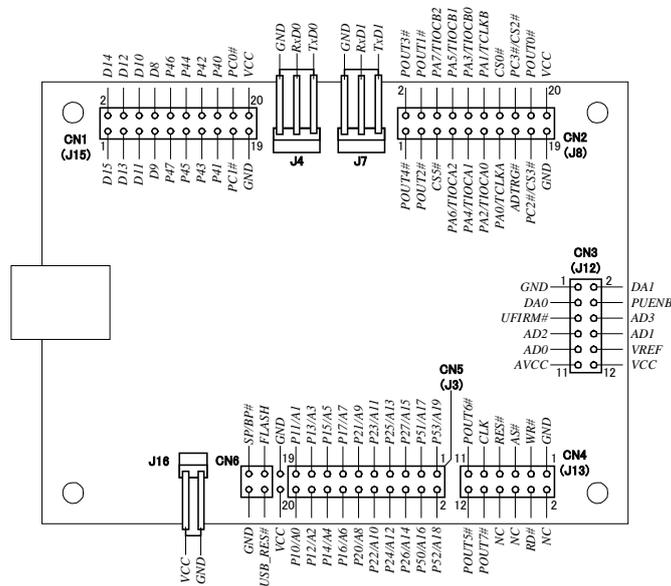


図 4 信号配置図

- システムファームを使用する場合、予約、未使用端子は接続しないでください。

□ ジャンパースイッチ

ジャンパースイッチの機能を示します。「J14」(リセット)以外のスイッチ操作は電源オフの状態で行ってください。

表 22 ジャンパースイッチ

番号	説明
J1	VREF を外部から与える場合は“OFF”にします。 <u>VREF を入力しない場合は必ず“ON”にしてください。</u>
J2	AVCC を外部から与える場合に“OFF”にします。 <u>AVCC を入力しない場合は必ず“ON”にしてください。</u>
J5	セルパワァーで使用する場合“OFF”にします。その他は“ON”にしてください。
J14	マイコンをリセットする場合“ON”にします。リセット後は“OFF”にしてください。
J17	フラッシュメモリを書き換える場合は“ON”にします。通常使用では“OFF”にします。
J19	ブートモードでフラッシュメモリを書き換える場合は“OFF”にします。普段は“ON”で使用します。
J20	“ON”で起動すると、フラッシュ上のユーザーファームを実行します。“OFF”の場合、システムファームのデフォルト動作を行います。
J21	P4 ポートのプルアップを禁止する場合“ON”にします。プルアップする場合は“OFF”にします。後述の設定ツール「M3069Option」で設定を行った場合はツールでの設定が優先されます。

モード設定

表 23、図 5 は「J17」、「J19」、「J20」による製品のモード設定をまとめたものです。

表 23 モード設定

モード名	J17 [FLASH]	J19 [UBOOT]	J20	説明
通常モード	OFF	OFF/ON	OFF	通常動作。
ユーザーファーム起動モード	OFF	OFF/ON	ON	通常動作。ユーザーファームが書き込まれていれば起動します。
ブートモード	ON	OFF	OFF/ON	ブートモード ⁸ で起動。市販のツールでフラッシュメモリを書き換える場合に設定します。
フラッシュ書換えモード	ON	ON	OFF/ON	フラッシュ書換えモード(ユーザーブートモード ⁹)で起動。付属のフラッシュライティングツールを使用する場合に設定します。

- ブートモードを使用する市販のライティングツールではユーザーマットの書き換え時に、ユーザーブートマットを消去してしまいます。その場合、付属ツールでのファームアップデート及びフラッシュメモリへのプログラムのダウンロード機能は使用できなくなりますのでご注意ください。

⁸ 市販ツールのほとんどはこのモードでフラッシュの書き換えを行います。シリアル 1 とパソコンのシリアルポートを接続してフラッシュの書き換えが行えますが、本製品ではこのモードのご使用はお勧めしません。

⁹ ユーザーブートマットと呼ばれる特殊なフラッシュメモリ領域を使用してマイコンを起動します。『USBM3069』では USB 経由でフラッシュを書き換えるためのプログラムが起動します。ユーザーブートモードの詳細は H8/3069RF のマニュアルを参照してください。



- ・枠で囲まれたジャンパースイッチが“ON”の箇所です。
- ・J1、J2 はアナログのリファレンスのためのスイッチです。モード設定には関係ありません。

図 5 モード設定例

□ 電源の設定

USB 機器では、内蔵もしくは AC アダプタなどの電源を使用し、ホストパソコンからの電源供給を必要としない機器をセルフパワーデバイスと呼び、USB ケーブルを通じてホストパソコン、または、USB ハブから電源の供給を受ける機器をバスパワーデバイスと呼びます。

『USBM3069』はどちらの用途でも使用できます。また、『USBM3069F』ではバスパワー、セルフパワーどちらにも対応する 2 ウェイ設定で利用することも可能となっています。電源設定は、出荷時にはバスパワーとなっています。用途に合わせて変更してください

バスパワーで使用する

「J5」のジャンパースイッチを“ON”にして使用します。コンフィギュレーション情報をセルフパワー専用に変更した場合は、バスパワー用に戻す必要があります。

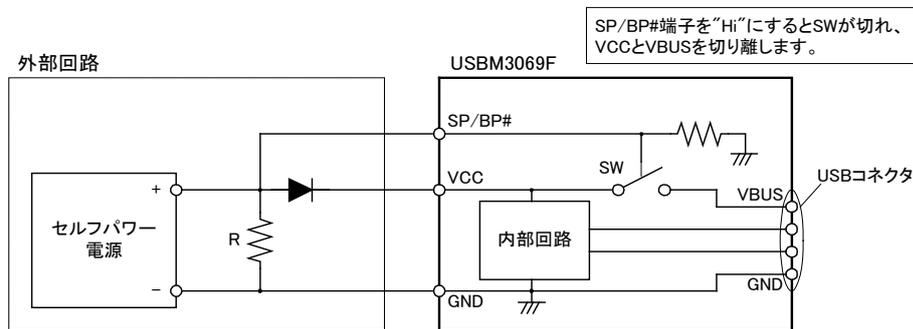
セルフパワーで使用する

「J5」のジャンパースイッチを“OFF”にして使用します。出荷時にはデバイスのコンフィギュレーション情報としてバスパワーデバイスの情報が書き込まれています。付属の設定ツール「USBMTools」(25 ページ) を使用して、デバイスのコンフィギュレーション情報をセルフパワー専用のものに書き換えてください。

デフォルトの状態では、バスパワータイプの USB ハブとの接続時に「電力供給能力を超えました。」というメッセージが表示されて使用できない場合があります。

2 ウェイ電源(バスパワー／セルフパワー兼用)で使用する

「J5」のジャンパースイッチを“ON”にして使用します。また、SP/BP#端子を電源状態に合わせて操作する必要があります。セルフパワー用電源が使用可能なときには SP/BP#端子を 4V 以上にしてください。バスからの電源が必要なときには SP/BP#端子が 1V 以下となるようにします。コンフィギュレーション情報をセルフパワー専用に変更した場合は、バスパワー用に戻す必要があります。



- $4.5V \leq VCC \leq 5.25V$ の範囲に調整してください。
- R はオプションです。SP/BP#端子はボード内でプルダウンされていますが、バスパワー時にダイオードの逆電流により十分に電圧が下がらない場合に接続します。

図 6 2 ウェイ設定の回路例

『USBM3069F』のコンフィギュレーション情報

USB デバイスは自分がどのようなデバイスであるかをホストに知らせるためにディスクリプタと呼ばれるデータを保持しています。『USBM3069F』ではコンフィギュレーション情報の一部として、ディスクリプタ内の電源供給方式や、消費するバス電力などの情報を書き換えています。

『USBM3069F』のデフォルトのコンフィギュレーションはバスパワーデバイスとなっており、バスからの電源電流として 500mA を要求します。パソコンや、セルフパワーの USB ハブからは 500mA まで電流供給を受けることができますので、外付けの回路では VCC 端子を通して概ね 400mA 程度までを利用可能です。ただし、消費電流はボードの使用状況により変動しますので、全体の消費電流が 500mA を超えないようご注意ください。

バスパワー動作する USB ハブは 1 つのポートに供給できる能力が小さいため、“電力供給能力の不足”となり製品が使用できない場合があります。USB ハブはセルフパワータイプのものをご利用ください。

『USBM3069F』をセルフパワーでご利用になる場合、コンフィギュレーション情報をセルフパワー専用のもの書き換えることで、バスからの電源を要求しなくなります。つまり、“電力供給能力の不足”として使用できなくなることはありません。ただし、このコンフィギュレーションではバスの電源は一切使用できませんので、必ず「J5」のジャンパースイッチを“OFF”にして使用してください。

以前のバージョンの『USBM3069』ではバスパワーのコンフィギュレーションのまま、セルフパワーで使用することはできませんのでご注意ください。

□ メモリマップ

製品搭載マイコンが使用できるメモリ空間を図 7 に示します。メモリ空間はエリア 0～7 までの 8 つのブロックに分けられて管理され、デコード回路を単純化できるようにエリア毎に別々の CS#信号が割り当てられています。

図 7 のうち白い四角の領域は、ユーザーが利用できる外部バス空間です。H8/3069RF ではアドレス幅は 24 ビットですが、『USBM3069』では上位 4 ビットを除く下位 20 ビット(1M バイト分)だけがアドレスバスに出力されます¹⁰。そのため、各エリアの上位 1M バイトは下位 1M バイトと同じアドレスとみなされます。つまり、H'400000 番地と H'500000 番地は同じアドレスと扱われます。エリア 2、3、5 については上位 1M バイト、下位 1M バイトどちらでアクセスしても構いませんが、エリア 0 については下位 1M バイトに外部アドレスとして扱われないフラッシュメモリのエリアが存在するため、H'100000～H'1FFFFFF のアドレス範囲でアクセスするようにしてください。

ユーザーメモリは H8/3069RF の内部メモリのうちユーザーに開放されているエリアで、一時的にデータを格納するのに利用できます。容量は小さいですが、ホストパソコンのメモリにデータを転送する場合と比較して、マイコンのローカルバス同士でのデータ転送は高速に行えます。

FT245 はエリア 7 にマップされています。独自のマイコン用プログラムをご利用の場合には H'E00000 番地を通してアクセスできます。

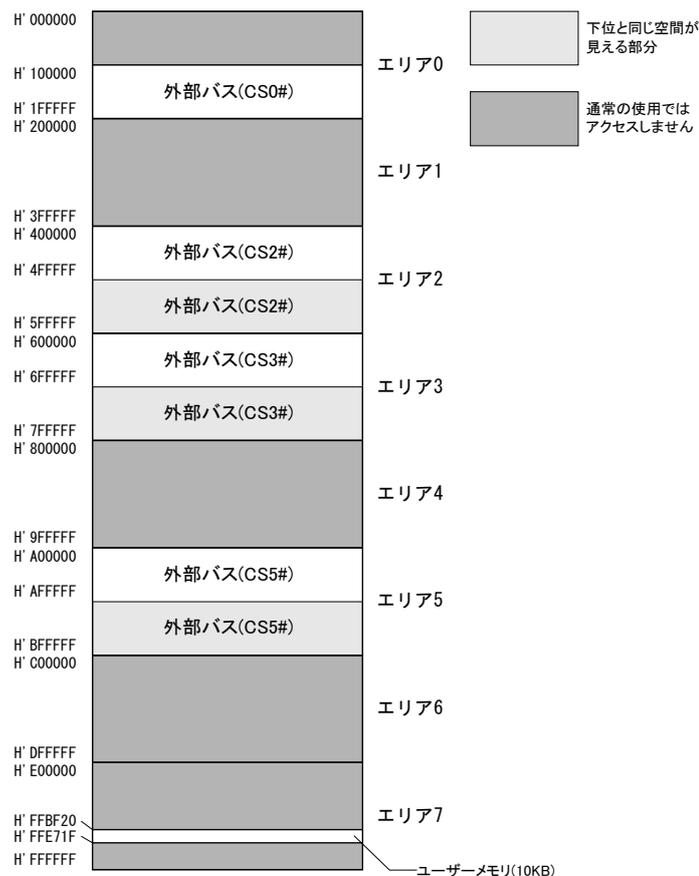


図 7 メモリマップ

¹⁰ アドレスを出力するためには P1,P2,P5 ポートを出力に切替える必要があります。

□ フラッシュメモリ

メモリ空間の H'000000～H'07FFFF の領域はマイコン内蔵のフラッシュメモリに割り当てられています。図 8 はフラッシュメモリ領域を詳しく示した図です。フラッシュメモリは全体で 512K バイト搭載されており、EB0～EB15 の 16 ブロックに分けて管理されます。図のように EB0、EB4～EB11 はシステムファームで利用される領域です。EB12～EB15 はユーザーファームを書き込むための領域として予約されています。EB1～EB3 の 12K バイトの領域はユーザーに開放されており、ボード固有の設定情報やキャリブレーションデータの保存などに利用できます。

フラッシュメモリは各ブロック単位に消去可能で、128 バイト単位での書き込みを行います。書き込みを行う際は、その領域を必ず消去する(全てのビットが"1"となる)必要があります。

フラッシュメモリの書換え可能回数の目安は 100 回、データ保持年数は 10 年です。

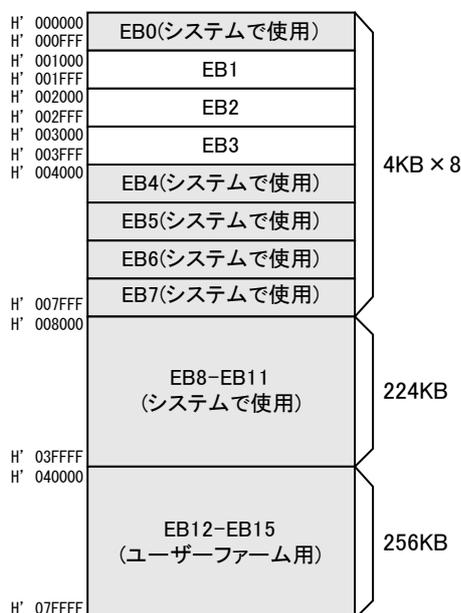


図 8 フラッシュメモリマップ

4. 使用準備

□ ドライバのインストール

ドライバは付属 CD-ROM に納められています。

表 24 ドライバファイルの格納フォルダ

使用 OS	ドライバファイルの格納フォルダ
Windows XP, Vista, 7, 8, 8.1, 10	CD の「¥DRIVER¥2000_XP」フォルダ

管理者のアカウントでログオンし、上記フォルダ内の「setup.exe」を起動します。

- 必ず「setup.exe」によるインストールを行ってください。ハードウェアウィザードで CD-ROM 内のフォルダを指定、または、検索してインストールを行った場合、必要なファイルがコピーされません。

Windows 7 のインストール例

- ① 「setup.exe」を起動すると、次のようなウィンドウが表示されますので「はい」を選択します。



図 9 Windows 7 のドライバインストール画面 (1)

- ② インストールプログラムが起動しますので、画面の指示に従ってインストールを行います。
- ③ インストールが開始されると、図 10 のような画面が表示されますので、[インストール]を選択します。



図 10 Windows 7 のドライバインストール画面 (2)

- ④ 次のような画面が表示されますので[完了]ボタンを押してください



図 11 Windows 7 のドライバインストール画面 (3)

- ⑤ デバイスを USB ケーブルでパソコンに接続します。図 12 のように「デバイスマネージャー」の画面に「USBM-Microcontroller BP」(または、「USBM-Microcontroller SP」)と表示されれば、ドライバが正しくインストールされています。

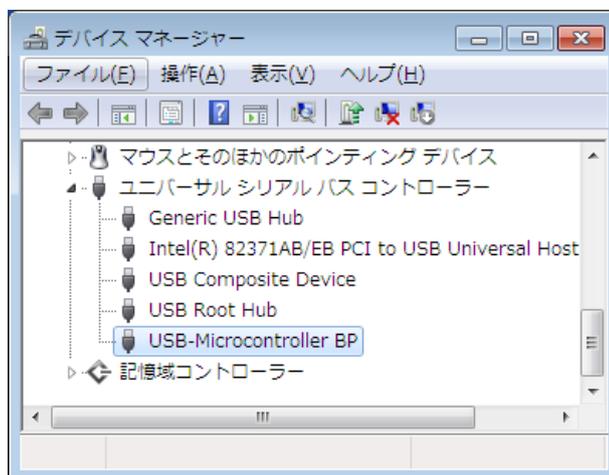


図 12 Windows 7 のドライバインストール確認

- 「デバイスマネージャー」を表示するには[スタート]メニューの[コンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。「システム」画面が表示されますので、画面左の[デバイスマネージャー]をクリックしてください。

Windows XP のインストール例

- ① 「setup.exe」を起動し、画面の指示に従ってインストールを行います。
- ② インストールが開始されると図のような画面が表示されますので[続行]ボタンを押します。

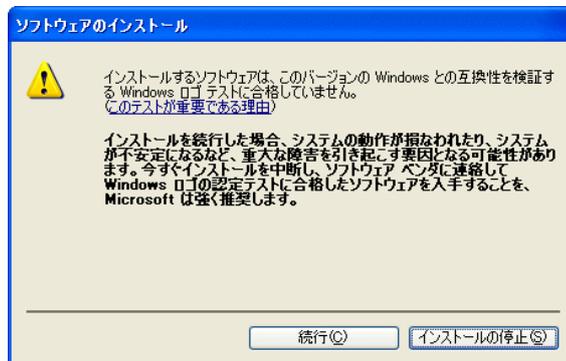


図 13 Windows XP のドライバインストール画面 (1)

- ③ 次のような画面が表示されますので[完了]ボタンを押してください。



図 14 Windows XP のドライバインストール画面 (2)

- ④ デバイスを USB ケーブルでパソコンに接続すると、図のような画面が表示されますので、[いいえ、今回は接続しません]を選択し、[次へ]のボタンを押します。

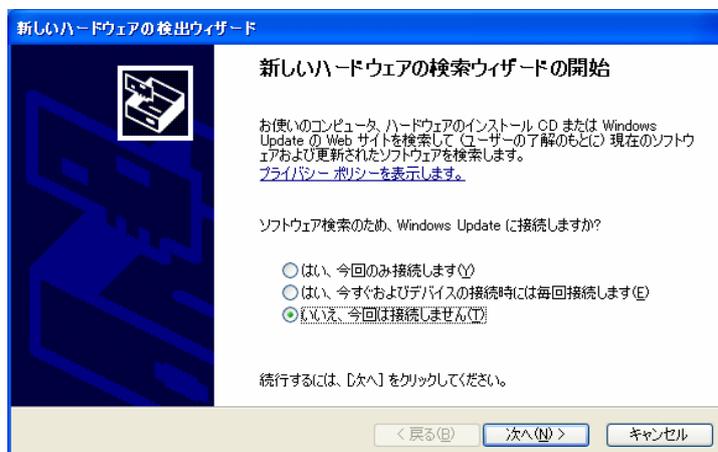


図 15 Windows XP のドライバインストール画面 (3)

- ⑤ 図のような画面が表示されますので、[ソフトウェアを自動的にインストールする]を選択し、[次へ]のボタンを押します。

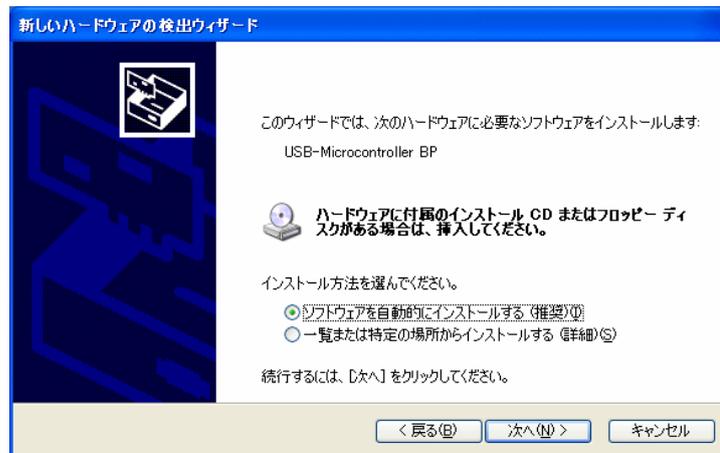


図 16 Windows XP のドライバインストール画面 (4)

- ⑥ 図のような画面が表示されますので、[続行]ボタンを押します。

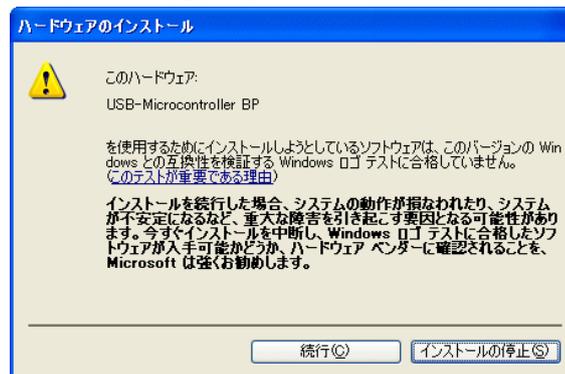


図 17 Windows XP のドライバインストール画面 (5)

- ⑦ 図のような画面が表示されますので、[完了]ボタンを押します。



図 18 Windows XP のドライバインストール画面 (6)

- ⑧ 図 19 のように「デバイスマネージャ」の画面に「USBM-Microcontroller BP」(または、「USBM-Microcontroller SP」)と表示されれば、ドライバが正しくインストールされています。

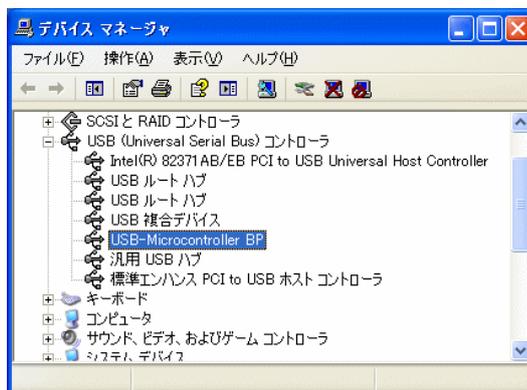


図 19 Windows XP のドライバインストール確認

- 「デバイスマネージャ」を表示するには[マイ コンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。「システムのプロパティ」画面が表示されますので、[ハードウェア]タブから[デバイスマネージャ]をクリックしてください。

古いドライバからの更新方法

以前のドライバ(Ver.3.1.4.1)がインストールされている場合、以下の手順に従ってドライバを更新します。

ドライバファイルは 64bit OS 対応にともない以前の"Ver.3.1.4.1"から"CDM Driver 2.06.00"(または、それ以降のバージョン)に変更されています。機能面での変更はございませんので、既に製品をご利用のお客様に関しては以前のバージョンをそのままご利用いただいても問題ございません。

- 接続されている『USBM3069』デバイスを全て外します。
- 「コントロールパネル」から[アプリケーションの追加と削除]、または、[プログラムの追加と削除]を開きます。「FTDI FTD2XX USB Drivers」の項目を選択して削除してください(図 20)。

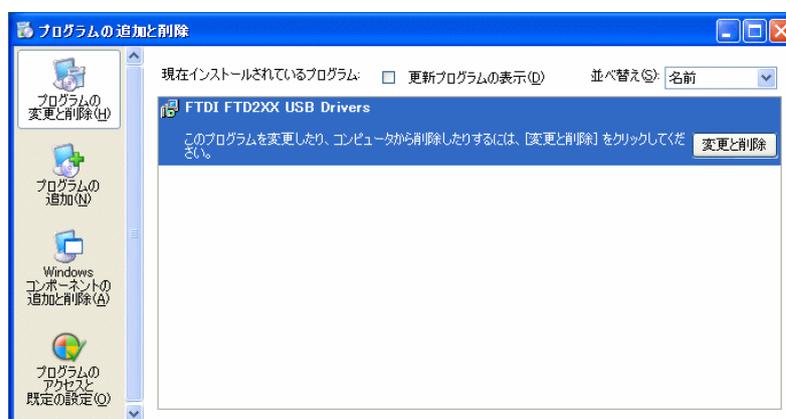


図 20 古いドライバのアンインストール

- 前記に従い新しいドライバをインストールしてください。

□ VI ライブラリのインストール

LabVIEW でご利用の場合は、付属 CD の「¥VI¥TWB_VI¥setup.exe」を実行して、VI ライブラリをインストールします。使用方法に関してはライブラリに付属するオンラインヘルプを参照してください。

□ 設定ツール

設定ツールのインストール

付属 CD の「¥TOOL¥USBMTools¥Setup.exe」を実行して、設定ツール(「USBMTools」)をインストールします。

設定ツールについて

標準のインストールでは、[スタート]メニュー→[すべてのプログラム]([プログラム])→[テクノウェーブ]→[USBMTools]を選択すると、「USBMTools」(図 21)を起動することができます(画面イメージはバージョンや OS によって異なる場合があります)。



図 21 設定ツールのメニュー画面

表 25 設定ツールの機能説明

プログラム名	機能説明
ReadID	パソコンに接続されている製品のベンダーID、プロダクト ID、USB シリアル番号を表示します。
UAWriter	ユーザーエリアと呼ばれる領域にテキストデータを書き込みます。書き込んだデータは製品識別に利用できます。
PowerConfig	製品のコンフィギュレーション情報をバスパワーまたはセルフパワーに変更します。
M3069PIWriter	製品情報を書き込みます。製品情報については後述の説明を参照してください。
M3069Option	起動時の入出力ポート方向、出力データ、プルアップ機能の許可/禁止を指定します。
M3069FlashWriter	主に製品のフラッシュメモリにユーザーファームウェアをダウンロードする場合に使用します。
M3069IniWriter	ユーザーファームに動作パラメータを与えたい場合に使用します。
USBM3069 Firmware Updater	製品のシステムファームを更新します。
USBM3069-HS Firmware Updater	この製品では使用しません。

各設定ツールの使用方法については、オンラインヘルプまたは画面の説明を参照してください。

コンフィギュレーション情報の変更

コンフィギュレーション情報を変更するには「USBMTools」から「PowerConfig」を使用します。

デバイスをパソコンに接続し、[接続]ボタンを押します。[バスパワー]または[セルフパワー]を選択し、[書き込み]ボタンで設定を変更します。



図 22 「PowerConfig」の画面

製品情報の設定

搭載マイコンのフラッシュメモリを利用して、製品の識別情報を記憶することができます。付属の TWB ライブラリでは予め書き込まれた製品情報を指定して、特定のデバイス进行操作することができるようになっていますので、『USBM3069』を組み込んだ装置の種類を調べたり、複数の製品を操作したりが簡単に行えます。

また、製品情報は LAN インタフェース製品『LANM3069』でも同様に利用可能となっていますので、USB とネットワークの両方に対応したプログラムを作成する場合にも有効です。

特に『USBM3069』を組み込んだアプリケーション製品を販売される場合は、誤って他のアプリケーション製品を操作することが無いように製品情報を指定してデバイスに接続することを推奨します。

表 26 は製品情報として設定可能な項目です。

表 26 「M3069PIWriter」の設定項目

項目	説明
UUID	世界中で重複することのない番号です。これを製品の ID として使用することで誤った製品の操作を防ぐことができます。
Number	32 ビットの整数を記録することができます。この値はデバイスに接続するときの識別用を使用することができます。ボード毎に違う番号を書き込んでおくことで複数のデバイスを同時に操作する際に便利です。
製品名	お客様の製品名を格納することを想定しています。32 バイトまでの文字列を格納できます。
製造元	お客様の会社名を格納することを想定しています。32 バイトまでの文字列を格納できます。

製品情報の設定には「USBMTools」の「M3069PIWriter」を使用します。

UUID は[作成]ボタンを押すと自動的に生成されます。その他の項目は任意で入力してください。

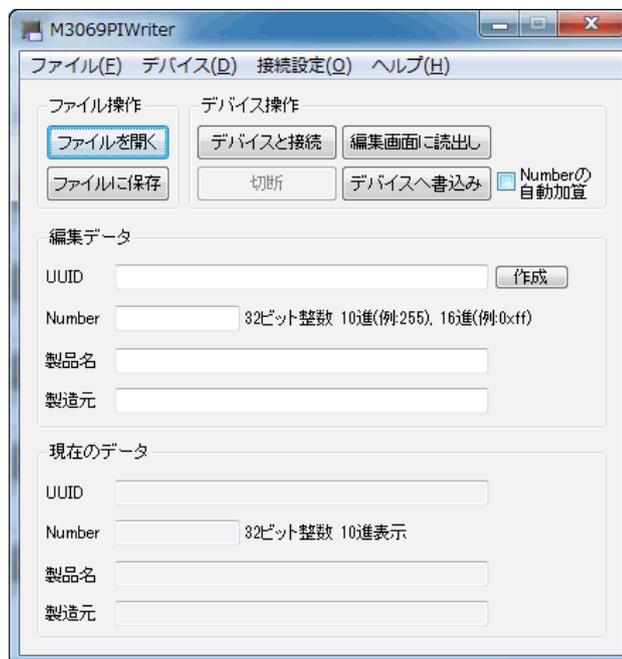


図 23 「M3069PIWriter」の画面

デバイスを「フラッシュ書換えモード」でパソコンに接続し、[デバイスへ書込み]ボタンを押すと設定内容が書き込まれます。「M3069PIWriter」の詳細な使用法はオンラインヘルプを参照してください。

端子初期状態の設定

入出力端子の一部は起動時の初期状態を設定することができます。表 27 は初期設定が可能な信号名と設定可能な項目です。

プルアップ設定が可能な端子は、プルアップ機能を有効にすると抵抗(16K~100KΩ相当)で VCC に接続された状態になります。

デフォルトでは、入出力切り替え可能な端子は全て入力、出力専用端子は全て“OFF”、プルアップ可能な端子は全てプルアップ機能が有効な状態で起動するようになっています。

表 27 初期設定が可能な信号と設定項目

信号名	設定可能項目	備考
P10~P17	入出力方向	出力するとアドレス信号(A0~A7)となります。10KΩの抵抗でプルアップされています。
P20~P27	入出力方向/プルアップ	出力するとアドレス信号(A8~A15)となります。
P50~P53	入出力方向/プルアップ	出力するとアドレス信号(A16~A19)となります。
P40~P47	入出力方向/出力データ/プルアップ	
PA0~PA7	入出力方向/出力データ	10KΩの抵抗でプルアップされています。
POUT0#~POUT7#	出力データ	

各端子の初期状態を設定するには、「USBMTools」の「M3069Option」を使用します。

画面上のチェックボックスを操作し、希望の初期状態を設定します。

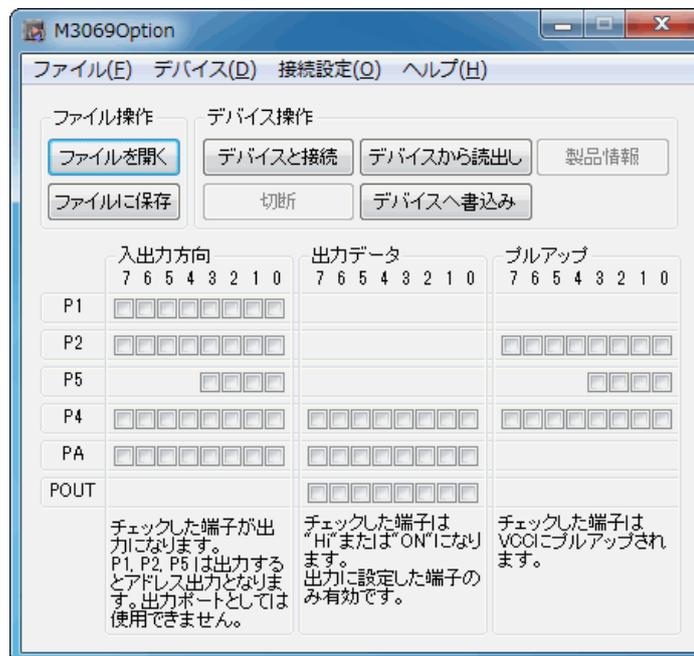


図 24 「M3069Option」の画面

デバイスを「フラッシュ書換えモード」でパソコンに接続し、[デバイスへ書込み]ボタンを押すと設定内容が書き込まれます。「M3069Option」の詳しい使用方法はオンラインヘルプを参照してください。

ファームウェアの更新

製品のシステムファームはバグの修正や、機能追加のために不定期に新しいバージョンのものが公開¹¹されます。システムファームの更新ファイルは設定ツールの中に含まれていますので、更新する場合にはまず新しい設定ツールをご利用のパソコンにインストールしてください。

更新を行うには「USBMTools」のメニュー画面から「USBM3069 Firmware Updater」を選択します。



図 25 システムファームの更新画面

デバイスを「フラッシュ書換えモード」でパソコンに接続し、[書込み]ボタンを押すとシステムファームが書き込まれます。更新ツールの詳しい使用方法はオンラインヘルプを参照してください。

- 製品は製造時期により、出荷時に書き込まれているシステムファームのバージョンが、CD-ROM に収められているのもよりも古い場合があります。ご使用になる前に更新ツールで[接続]を行い、バージョンが古い場合には更新を行ってください。

¹¹ 弊社ホームページにて随時公開します。

5. トラブルシューティング

□ 製品と通信ができない場合

製品と通信ができない場合、下記の事項をお確かめください。

- ・ ドライバが正しくインストールされているか確認してください。確認方法は 20 ページ「ドライバのインストール」を参照してください。
- ・ 「USB-シリアルポート変換デバイス」をご利用の場合に、ドライババージョンが競合し、正しく動作しない場合があります。お手数ですが弊社サポート窓口にお問い合わせください。

Appendix

□ 製品の応答時間

ライブラリ関数の呼び出しに対する応答時間は使用環境によって影響を受けますので一定ではありません。特に実行プロセスやスレッドの切り替えが起こった場合には、関数の実行に 10msec 以上の時間がかかる場合もありますのでご注意ください。

図 26 は参考として入力端子の読出し関数を 1000 回行い、実行に要した時間をプロットしたものです。

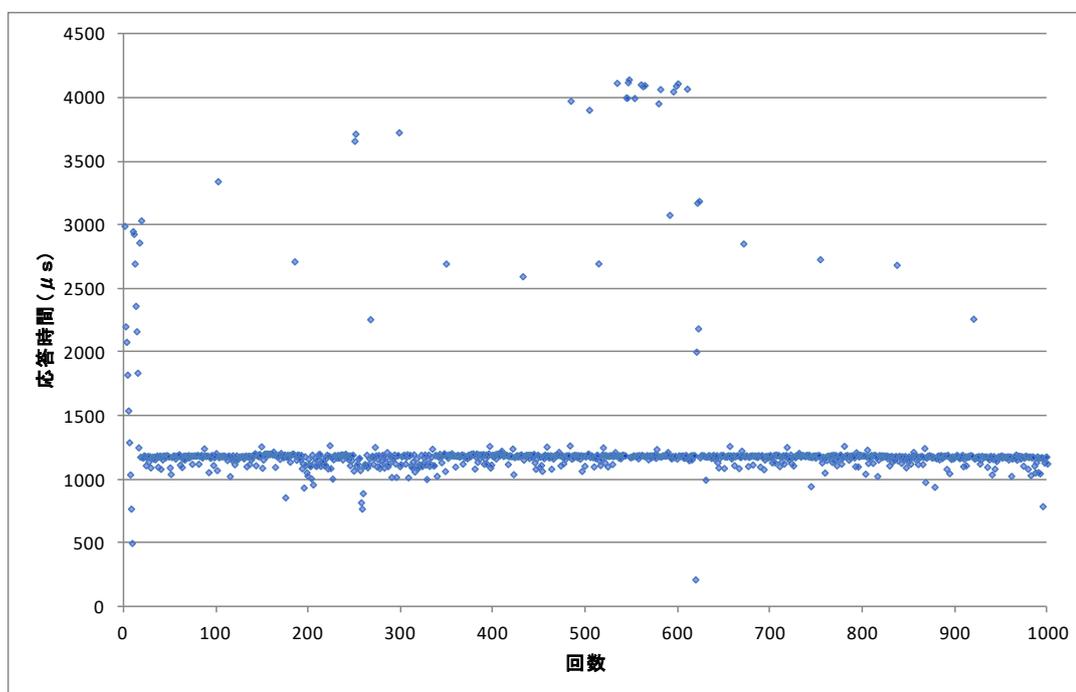


図 26 製品の応答時間

保証期間

本製品の保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証期間中の故障につきましては、無償修理または代品との交換で対応させていただきます。ただし、以下の場合は保証期間内であっても有償での対応とさせていただきますのでご了承ください。

1. 本マニュアルに記載外の誤った使用方法による故障。
2. 火災、震災、風水害、落雷などの天災地変および公害、塩害、ガス害などによる故障。
3. お買い上げ後の輸送、落下などによる故障。

サポート情報

『USBM3069』に関する情報、最新のファームウェア、ユーティリティなどは弊社ホームページにてご案内しております。また、お問い合わせ、ご質問などは下記までご連絡ください。

テクノウェーブ(株)

URL : <http://www.techw.co.jp>

E-mail : support@techw.co.jp

- (1) 本書、および本製品のホームページに掲載されている応用回路、プログラム、使用方法などは、製品の代表的動作・応用例を説明するための参考資料です。これらに起因する第三者の権利(工業所有権を含む)侵害、損害に対し、弊社はいかなる責任も負いません。
- (2) 本書の内容の一部または全部を無断転載することをお断りします。
- (3) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (4) 本書の内容については、万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。

改訂記録

年月	版	改訂内容
2006年10月	初	
2007年3月	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「USBM ライブラリ 関数リファレンス」を削除(別冊化) ・製品情報の利用方法に関する記述を追加 ・「デバイスのオープン」を更新 ・誤記の修正
2007年9月	3	<ul style="list-style-type: none"> ・システムファーム Ver.3.0.1 以降に対応した記述を追加 ・誤記の修正
2008年6月	4	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュメモリに関する記述を追加 ・誤記の修正
2009年11月	5	<ul style="list-style-type: none"> ・64bit 版対応の記述に変更 ・誤記の修正
2010年6月	6	<ul style="list-style-type: none"> ・システムファーム Ver.4.2.1 以降に対応した記述に変更 ・USBM ライブラリ 3.6.0.1 以降に対応した記述に変更
2012年2月	7	<ul style="list-style-type: none"> ・対応 OS 仕様を変更 ・「USBMTools」に関する記述を変更 ・PC2#,PC3#信号の入力仕様の誤りを修正 ・AD 変換時間に関する記述を修正 ・その他
2012年6月	8	<ul style="list-style-type: none"> ・誤記を修正
2012年6月	9	<ul style="list-style-type: none"> ・TWB ライブラリに対応 ・プログラミングに関する説明を別資料化
2013年3月	10	<ul style="list-style-type: none"> ・『YCH8/YSH8』の発売元変更に対応 ・対応 OS に Windows 8 を追加
2018年4月	11	<ul style="list-style-type: none"> ・対応 OS に Windows 10 を追加